



ゆめ通信

2017.9.1. No.94

発行 日本養豚事業協同組合

〒104-0033 東京都中央区新川2-1-10
八重洲早川第2ビル6階

TEL.03-6262-8990 FAX.03-6262-8991

第16期利用分量配当実施

専務理事 矢嶋 隆次

平成29年2月24日（金）に開催された、第16回通常総会にて16期の利用分量配当を3,000万円とすることの剰余金処分案が可決されました。これに基づき第16期の組合員の共同購入販売事業利用実績の集計をはじめました。今期は、常に集計に手間取る指定配合飼料ゆめシリーズの間接取引の実績集計が昨季より早く5月に終了し、利用分量配当金を6月28日に組合員に送金できました。これで総会の決議事項の決算案が全て完了したこととなります。共同購入販売事業をご利用いただきました組合員の皆様に、紙面を借りてお礼申し上げますとともに、集計にご協力いただきました飼料会社や特約店の担当者の皆様に重ねてお礼申し上げます。

「ゆめシリーズ」の値上げ値下げに関しては、全農や商系のそれよりも有利に四半期ごとの価格改定がなされています。加えて飼料の利用分量配当金は274円／トンとなりました。組合員の皆様にはさらに安く供給できたこととなりますので、御勘案頂き「ゆめシリーズ」のさらなる利用促進をお願い致します。

共同購入販売事業では、「ゆめシリーズ」の直接取引の取扱数量は13,774トンと前年比110%となりました。しかし間接取引は減少し、直接・間接合計では122,924トンと、前期（129,055トン）比95%で終了いたしました。ゆめシリーズは豚事協の設立目的の根幹となる商品です。皆様のご理解を賜り、利用量の増加をお願いしたいと思います。

その他の商材につきましては、脱臭剤が前年比133%（121,600kg）と大きく伸張しました。組合員

の皆様が環境整備に力を入れている結果だと理解しております。その他では混合飼料（113%）、精液・AI関連およびカテーテル（103%）、凝集剤（102%）については前年を上回りましたが、その他の商材は前年を割り込みました。Topigs種豚は2,000頭を割り込みましたが、需要に供給が追い付かなかったため、組合員の皆様にご迷惑をかける結果となりました。来期には東海ブリーディングの第2農場がフル回転し、年間4,000頭の供給体制が整いますので皆様のご利用をお待ちいたします。

共同購入販売事業のまとめ

共同購入販売事業利用組合員数334名（利用率81%）

取扱品目		数 量	前年比 (数量)	金額 (千円)	利用 組合員数
飼料	直接	13,744 トン	110%	655,738	37名
	間接	109,180 トン	94%	4,390,000	127名
自家配合プレミックス		35,200 kg	90%	32,437	20名
混合飼料		53,500 kg	113%	12,835	62名
精液・AI関連		94,296 ds	103%	191,595	188名
カテーテル		688,500 本	103%	23,832	171名
凝集剤		174,000 kg	102%	86,011	64名
資材・薬剤				21,634	136名
妊娠診断装置		2 台	33%	1,190	13名
Topigs種豚		1,794 頭	82%	201,777	40名
脱臭剤		121,600 kg	133%	49,825	102名

Topics

PigINFOから得られるデータの最近の傾向

(国研)農研機構 食農ビジネス推進センター
山根 逸郎、宮下 史子、廣澤 智恵子、伊藤 宏美、山崎 尚則

農研機構では、2011年より日本養豚開業獣医師協会（以下JASV）と共同研究で、養豚農家のベンチマーキングシステム、PigINFOを開発してきました。2012年～2013年度には日本養豚事業協同組合（以下、豚事協）の協力を得て、豚事協の組合員の方々を対象にPigINFOによるベンチマーキング解析を行い、70戸を超える農家の方々に参加していただきました。PigINFOの豚事協を窓口とする形は2014年度で終了し、それ以降はJASVを一括窓口として運営してきました。今回、PigINFOのデータをもとに、過去7年間の養豚業界の動向を振り返ってみました。

2017年7月現在、PigINFOの参加農場は174戸にまで増えました。農場数が増えたことで、地域別、規模別の各母集団における解析においても、より精度の高い解析結果をお返しすることができるようになりました。解析結果の返却は、3ヶ月ごとに1回の四半期単位と過去1年単位での解析結果をお返ししています。それに加えてWebでも成績結果を閲覧可能になり、Web上のデータは随時更新され、常に最

新の解析結果を見ることができるようになりました。

解析項目に関しても、生産者の方々や、JASV獣医師の意見をもとに改良を重ね、現在は表1に示す31項目を成績表に記載しています。以前のPigINFOとの大きな変更点としては、出荷日齢を追加した点、平米あたりの生産性を加えた点、それまでの農場枝肉FCRに加え、肉豚枝肉FCRを評価項目に追加した点などが挙げられます。後者の変更によって、農場経営全体の飼料要求のパフォーマンスだけでなく、肉豚の飼料要求のパフォーマンスの成績も知ることができるようになりました。また、ゆめ通信（No.77）でも一部を紹介させていただきましたが、2015年の解析分から（一貫経営を行っていない）繁殖農家や子豚販売を行っている一貫経営の農家に対しても一部の成績の評価（A～F判定）が付されるようになりました。

本稿では、PigINFOのデータから得られた、2010年～2016年までの成績の推移の一部を紹介します。

まず、枝肉価格（／kg）（図1）は、多少変動があ

表1 PigINFO成績表の項目

項目番号	項目名	項目番号	項目名
1	産別数(頭/年)	17	飼料費(枝肉)
2	販売数(頭/年)	18	産別数(g/1)
3	産別数(頭/年)	19	出荷日齢
4	販売数(頭/年)	20	農場枝肉FCR
5	飼料費(頭/年)	21	肉豚枝肉FCR
6	産別数(頭/年)	22	肥育密度(n/ha)
7	産別数(n/年)	23	産別子豚数(頭/年)
8	売上割当比率	24	産別子豚数(ケート/年)
9	ワクチン・抗生物質費(円/年)	25	産別子豚数(1頭)
10	出荷枝肉重量(1/年)	26	分岐重量(1/年)
11	出荷枝肉重量(1/年)	27	産別子豚死亡率
12	枝肉価格(1/kg)	28	生存子豚数(1頭)
13	出荷頭数(1/年)	29	分岐率
14	枝肉重量(1/年)	30	飼料子数(1頭)
15	産別子豚死亡率	31	死産数(頭)
16	飼料費(1/kg)		

図1 枝肉価格（／kg）

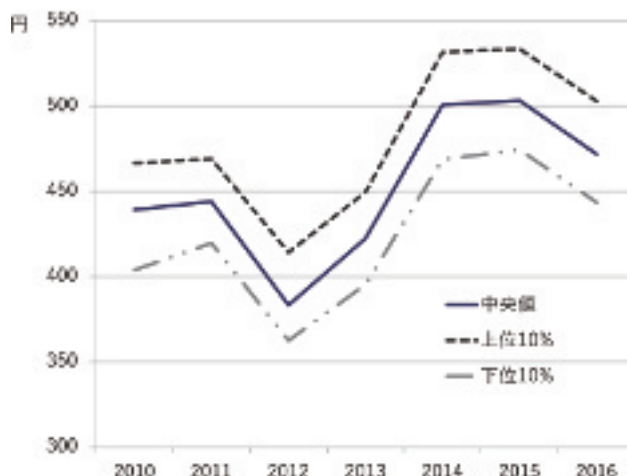
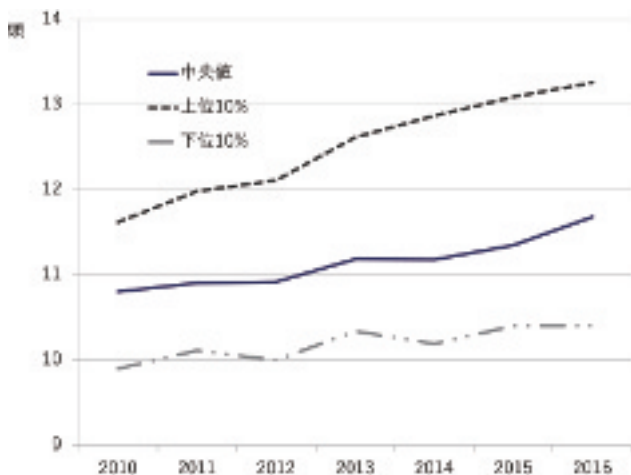


図2 生存産子数（／腹）

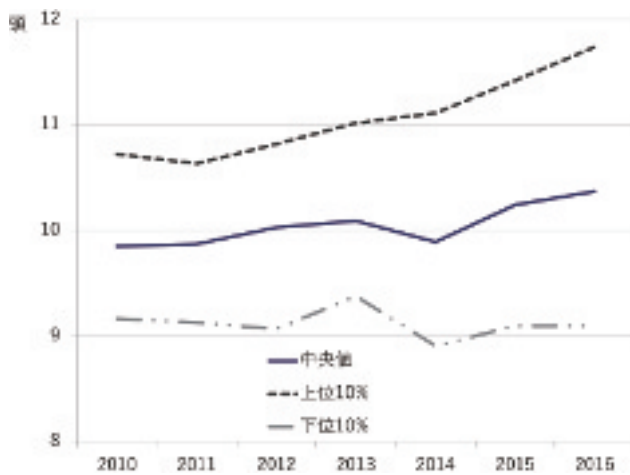


るものの、この7年で上昇傾向にあることがわかります。詳細を見ると、2014年はPEDや前年の猛暑のために生産量が減少した影響を受けて大きく上昇し、2015年も高値を保っています。2016年は、PEDから回復して出荷頭数が増えたこと、また輸入量の増加の影響もあって減少しますが、依然として、上位10%値が500円/kgを超える高い水準にあることがわかります。販売額（／肉豚）は、この枝肉価格（／kg）とほぼ連動した動きを見せ、中央値で35,000円を超える高い水準にあります（2016年。グラフ掲載なし）。

次に、生存産子数（／腹）（図2）では、全体に増加傾向にある中で、特に成績上位群の増加が著しいことがわかります。具体的には、上位10%値で、2010年には12頭を下回る程度でしたが、2016年には13頭を超え、実に1.6頭超の増加となりました。これは、成績上位群で、多産型の豚の導入が進んだ結果だと言えます。中央値も2010年～2016年で約0.9頭の増加と、頭数でこそ上位10%値には届きませんが、特に近年の増加ペースがめざましく、養豚業界全体に多産型の豚の導入が進んでいることがわかります。

さらに、離乳子豚数（／腹）（図3）の推移を見てみましょう。PEDの影響で、中央値、下位10%は、2014年に大きく落ち込んでいる点が、生存産子数（／腹）（図2）の動きと多少違います。しかし2010年～2016年を通して見ると、生存産子数（／腹）の増加を受けて増加傾向にあり、上位10%値で約1.0頭、中央値で約0.5頭増加したことがわかります。離乳子豚数（／母豚／年）で見ると、より顕著になり、上位10%値で約3.5頭、中央値で約1.2頭増加しています（グ

図3 離乳子豚数（／腹）

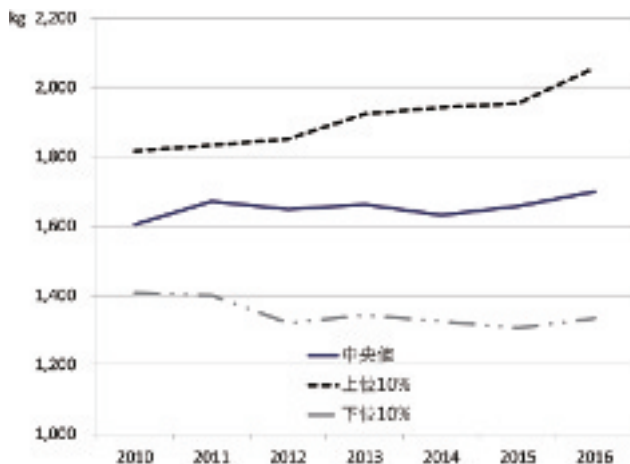


ラフ掲載なし）。

この傾向を受けた結果、出荷枝肉重量（／母豚／年）（図4）において、下位10%値は減少傾向であるのに対し、上位10%値は2010年から継続して増加傾向にあり、特に2012年以降は急激に増加しています。中央値は上位群から遅れて、2014年ころから増加傾向が見られます。その結果、上位10%値と下位10%値の差は、2010年には200kg程度だったのに対し、2016年には700kgを上回りました。

今まで紹介したように、枝肉価格（／kg）、生存産子数（／腹）、離乳子豚数（／母豚／年）、出荷枝肉重量（／母豚／年）はいずれも増加傾向にあります。枝肉価格（／kg）の増加と、出荷枝肉重量（／母豚／年）の増加の相乗効果で、販売額（／母豚／年）はこの7年で大きく伸びる結果となりました（グラフ掲載なし）。さらにこの7年で、上位群と下位群の差は広がっており、養豚農家の経営が二極化している

図4 出荷枝肉重量（／母豚）



ことが読み取れました。

過去のゆめ通信でも紹介しましたが、ベンチマーキングとは、成績を同業他社と比較して、経営改善に活かすことです。年々状況が厳しくなっている養豚業界で、農家の方々が抱える問題が多岐にわたる中で、より優先すべき改善点を知ることが効率的に収益を上げる手段であるとも言えます。PigINFOは、その成績項目で得られたデータをもとに自農場の立ち位置を知ること、弱みを改善する足がかりとなるでしょう。先に述べた例に見られるように、PigINFOの解析には、養豚の生産性や効率性に着眼した項目が多くあります。自農場の経営を広い視点で捉え、生産性の拡大にPigINFOの情報を役立てて

いただけましたら幸いです。未加入の豚事協の組合員の方々におかれましても、さらに改善し、使いやすくなったPigINFOに、参加をご検討されてはいかがでしょうか。

PigINFOへの参加を希望される方は、以下にお問い合わせ下さい。

日本養豚開業獣医師協会事務局（担当：北川）

TEL 046-290-5630 FAX 046-290-5631

受付時間（土・日・祝祭日 年末年始を除く）

平日 9：00～17：00

mail pig.jasv@r7.dion.ne.jp

URL <http://www.e-jasv.com/>

関東支部セミナー開催

17期の支部セミナー開始前に理事長と組合員との意見交換会を設け、忌憚のない意見をお聞きし組合の発展に活かすこととしました。たくさんの情報交換の中で、特に組合員に毎年配布されている利用の手引きの利用状況の低いことがわかり、この紙面をお借りして是非一読ならず二読し、組合の取扱商品を利用していただけるようお願い申し上げます。

6月23日（金）TKP東京駅日本橋カンファレンスセンターにて、辻内嘉明支部長の本日の講演は盛り沢山な内容でありしっかりと聞いて経営に活かして欲しい旨の挨拶で、17期の関東支部セミナーが開始されました。

まず初めに「日本養豚事業協同組合事業内容紹介」と題して矢嶋隆次専務理事より組合が取り扱う、飼料ゆめシリーズのコンセプト及び栄養設計並びに給与方法等、添加剤・種豚・AI関連商品・その他機材についての取扱商品の詳細な説明がなされました。

次に「今後20年を見据えた曾我の屋農興の展望～自主独立の高い生産性を目指して～」と題した曾我の屋農興(株)曾我統一氏の講演がなされました。自社

の歴史が紹介された後、自社の理念“人々の物心両面の豊かさに貢献する”、“高い生産性で安全安心な美味しい豚を作る”が示され、それに即し現状を見据えて描かれた中期・長期的な経営の未来像が資料を基に説明されました。豚事協若手経営者育成塾で学んだことを具現化された講演内容は、参加された皆様の高い関心が伺えた講演となりました。

さらに、獣医師山本一郎氏より「EUの種豚改良の方向性と迫りくるEU産輸入豚肉の脅威」と題した講演がなされ、脅威となるEUの動向について、①CTスキャン技術への投資が行われ、年間3,500頭に実施し高品質な肉質を作出していること、②遺伝子のゲノム解析が行われ改良が加速されていること、③新設豚舎の脱臭装置が義務化され環境対策の強化が進んでいること、④動物愛護が推進されていることの実態がEU訪問調査を背景に詳細に紹介されました。

最後に、(有)メンデルジャパンより、ゆったりとした環境で育む種豚の生産状況及び種豚の改良状況、併せて種豚の疾病対策状況、種豚の能力、精液普及状況が紹介されました。（山田）

第9回女性部セミナー開催

6月2日（金）～4日（日）の3日間、北海道にて女性部セミナーを開催しました。

3日の夕方に豚事協の理事でもある浅野政輝氏が経営するスマイルポーク（石狩郡当別町）を訪問し、豚肉の直売所とアスパラガス畑を見学しました。今回農場は見学できませんでしたが、浅野農場の豚は北海道の新鮮な空気を沢山吸って、地元で生産された小麦や当別町の山々から流れ出す水をアルカリ化しカルキ除去して与えられ、粃殻を90cmも深く敷き詰めたふかふかのベッドで飼育されているとの事です。SPF認定農場で、徹底した防疫管理のもと外部から病原菌を農場内に持ち込まない体制になっており、薬品使用比率の低さも全国トップクラスとの事です。こうして大切に育てられた豚の豚糞からなる堆肥は、地元のおいしい野菜を作るのに役立っているそうです。

販売所では豚肉、加工品のソーセージやハム、ベーコンの他に地元の特産品も販売されていました。小麦を食べて育った豚の肉は脂身の白さが際立ち甘味とコクを生むそうで、「農家育ちの健康豚」として販売され、“灰汁が少ない”“豚肉のイヤな臭みがない”“脂身が特に美味しい”との評判を、北海道ならではの広大な土地に、栄養価の高い堆肥をふんだんに使用して育ったアスパラガスは、太く味が濃くておいしいと評価を得ているそうです。アスパラガスは収穫までに3年かかるとの事で、今回は1～2年目のアスパラガスを見る事ができました。このアスパラ

ガスや豚肉、加工品は全国通販されており、誰でも購入可能です。あいにくの雨と寒さの中の見学となってしまいましたが、晴れていたらより素晴らしい景色だった事でしょう。アスパラガスのベーコン巻、とんかつ、ソーセージなどが入った試食というには贅沢すぎる詰め合わせを1人1人に用意して下さり、みんなとても美味しく頂きました。

今回は地方開催ということで、オプションツアーとして2日にアイヌ民族博物館を訪問したあと登別温泉に宿泊し、3日の朝は登別伊達時代村を訪れました。アイヌ民族博物館ではアイヌ民族の独特な踊り、子守歌、ムックリという楽器の奏でる面白い音等に触れたり、熊に餌をあげたり、北海道犬を見たりと日頃見聞き慣れないものに触れ、登別伊達時代村では、手裏剣を投げたり、忍者ショーを見たり、さまざまなアトラクションに参加し、東の間の青空のもと、とても楽しい時間を過ごしました。

その後訪問した「白い恋人パーク」では西洋の城のような外観の建物に、毎正時にいろんな動物たちがメロディを奏でるからくり時計の可愛さに癒されつつ、北海道名物“白い恋人”の製造工程の一部を見学しました。最終日は「旭山動物園」で珍しい雪豹や白くまを見て、ペンギン達のもぐもぐタイムを楽しみ、沢山の知識と思い出と共に帰路につきました。初参加の方も気軽に交流できる楽しい3日間になったのではないかと思います。（久保）



アスパラガス畑

Dr. 伊東の
ランダム
シンキング

第二回 ピッグサイエンス考

伊東 正吾

私は大学時代、農学部ではニワトリの人工授精、獣医学部ではウシの臨床繁殖を専攻していましたが、途中からブタに関わり、大学院では母豚の卵巣嚢腫の研究に深く関わりました。就職後、長野県畜産試験場の養豚部に配属されてからは一貫して養豚分野に関わり、大学に移籍してからも養豚科学（ピッグサイエンス）に関わってきました。

今から思うと、家畜保健衛生所で防疫分野、畜産試験場では実際にブタを飼育して育種、繁殖、子豚育成、肥育、屠畜業務と枝肉審査、種畜や精液の生産販売まで多方面に幅広く経験できたこと、さらに本業の試験研究のみでなく、豚舎の修繕工事などとも必然的に関わらざるを得ず、常に生産現場の方達と共通した意識で取り組めたことは大変有意義でした。さらにその発展形として、自宅で豚肉加工や内臓加工にも取り組み、大変良い経験ができました。

このような背景といくつかの事情を経て、齢50を目前にして図らずも突然、大学で獣医学科の学生を対象にブタに関わる獣医学を教えることになりました。

長らくブタに関わる仕事をしてきた私にとっては、日本国民が主に食する肉類は豚肉でありメジャーであることは十分承知しており、その重要性は言うまでもないとの認識を持っていましたが、獣医学科に赴任した当時は、感染症や衛生学以外の分野でブタに関わる専門教員は私一人であり、当然、獣医学科の学生達は国家試験に関わる分野には関心を持っていても、臨床といえばウシか小動物であり、ブタに興味を持つ者は極めて少ない状況でした。

大学に赴任して1年経ち、私の前任者が退職した段階で私はどのようにブタの分野を学生や他の教員に認知してもらい興味を持ってもらうか考えました。その結果、いろいろな場面で端的にアピールするため、ひとつのキャッチコピーをひねり出しました。

それが、『ブタは現代社会の救世主!!』です（表1参照）。そのキャッチコピーの背景にある、基本的な根拠は以下の通りです。

養豚関係者にとっては当たり前ですが、一般人に認知されていないことは、ブタという動物の繁殖周期は短く、1年に2.5回分娩するだけでなく平均産子数が12頭ほどあることです。そして驚きの能力として、生時体重約1.4kgの子豚は6カ月弱で体重が115kg程度となり出荷され、枝肉量としても78kg程度得られることから、母豚1頭が一年間に1,000kgの枝肉を生産することも十分可能であるという、驚異的な産肉性を有していることです。さらに、その肉質は高品質であり、ヒトにとって有益であることです（表1）。

この生産能力をウシと比較すると、ウシの受胎性は50%前後が実状であり、生まれた子牛も28カ月齢でようやく720kgで出荷され、枝肉歩留りは約57%と豚65%より低いことから、豚の生産能力がいかに高いかが良くわかります。さらに、豚は雑食性動物ですから、日本では特に問題になっている食品・食料の廃棄残渣をエコフィードとして利用することで、焼却対象の食品残渣（バイオマス）量の削減にも貢献でき、結果として焼却用資材である石油資源の使

表1 豚は現代社会の救世主!!

1. 雑食動物
食品工場や飲食店などの残渣処分…エコフィード
2. 高品質食品
良質タンパク質、ビタミン類、コラーゲン、善玉コレステロールなどの供給に優れている。
3. 医療関係
臓器移植、治療と治療法の解明、化粧品など
4. 伴侶動物
ミニチュアピッグ（ミニ豚）の飼育
……これぞ本当の座敷豚！

用量抑制と地球温暖化の抑制にも寄与できます。

私がブタ活用形のモデルとして考えたのは、各自治体が運営するゴミ焼却場での発生熱を利用してバイオマスを加熱乾燥・粉碎し、即座にその成分を近赤外分析計などで測定します。そして、成分を加味してブタやニワトリ用の飼料を配合製造し、その地域の農場に供給・リサイクルすることで大きな地域内循環系が確立でき、最終的に地産地消が推進できるというものです。もちろんそのためにはグランドデザインを明確化し、例えば人口10万人の自治体であれば、豚肉は一般的に一人当たり平均12～20kg供給・消費している（農水省、団体ほか；2013）とすると全体で年間1,200～2,000トン必要となり、最終的に当該地域で必要となるブタ飼養規模を算出・対応することで、本当の地産地消が実践できます。

地元地域から農場の存在が強く要望されることで農場及びその後継者は使命感を持って育ち、継続的に未来に向かって発展するのではないのでしょうか。

個々の農場の生産性や存続方法を検討する以上に、都市計画を検討すると同じく、食糧生産基盤の整備計画を個々の自治体または広域行政の中で検討することは重要だと考えますし、そのようなことに理解が深く、推進力のある政治家が出てきて活躍することを期待したいと私は願っています。

表1に示した内容では、さらに医療分野での貢献も指摘できます。

医薬品の開発段階や医療技術のトレーニングにブタを活用することは今や常識であり、さらに最近では、

iPS細胞を用いた人を対象とした移植用臓器の生産にも期待が寄せられ、具体的な取り組みが進められていることは既に報道などでも明らかです（図1参照）。

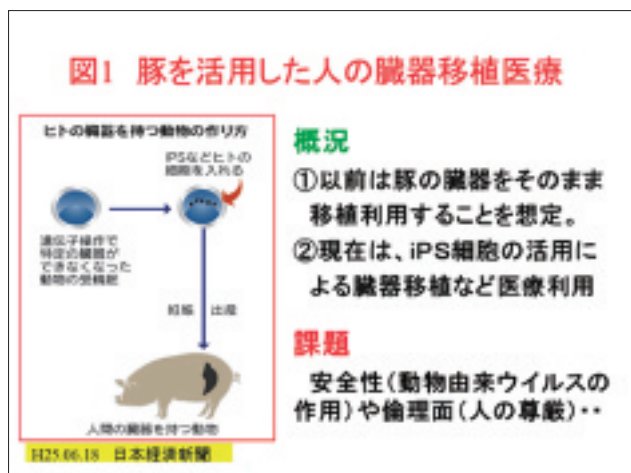
医療分野でも活用されているミニブタはペット（伴侶動物）としても人気があり、一般家庭や学校や福祉施設などでも飼育される機会も多くなっているようです。

歴史を振り返っても、かつて北海道の開拓時代には十勝開拓のリーダーであった依田勉三が「開拓の初めは豚と 一つ鍋」と詠んだように、鼻耕法で未開の大地を耕すとともに食料として利用した記録があり、近代の入り口では日本の南極探検隊が昭和基地でブタを飼育していた記録があるほど、ブタの有用性は昔から知られていたと思います。そして現代社会においては上述したように、単なる豚肉生産だけではなく様々な分野でブタという動物が活用されているのは事実です。

このような視点に立つと、私が大学に移籍して最初に提示したキャッチコピーの意味は、十分理解していただけるのではないかと思います。

ピッグサイエンスを考えると、ブタという動物がこの地上に存在してくれることに自然と感謝の念が湧いてきますし、神様に感謝したくなります。

生産現場の第一線に従事されている方々、これから後継者となり活躍が期待される方達がブタに関わる仕事に誇りを持っていただきたいと思いますし、ブタという動物に対して深い愛情を持っていただけることを期待します。



Topics

養豚場における効果的な消毒方法

第2回 消毒薬の具体的な使用方法

共立製薬株式会社
営業技術部
山崎 世使子

1. はじめに

今回は、消毒薬の特徴と使用する際の注意点についてご紹介しました。今回は消毒薬の使用方法についてお話しさせていただきます。

2. 適材適所の消毒方法

消毒を行う主な場面は、豚舎、豚の飲用水、農場内に持ち込む資材や薬品、車輛、衣類、履物、人間の手など様々です。一言で「消毒を行う」と言っても、消毒する対象によってその方法は変わります。消毒薬を噴霧するには、動力噴霧器を用いることが多いですが、例えば車輛、ビニールカーテン、ステンレスの餌箱、FPR製の離乳子豚舎のように消毒薬液が流れ落ちやすい材質に対しては消毒薬の付着時間を長くすることができる発泡消毒、また消毒薬をジャブジャブ噴霧して濡らせないものには煙霧消毒を選択するなど、用途に応じた方法があります。

3. 発泡消毒

発泡消毒とは、発泡ノズルを付けた動噴で消毒薬を発泡させる方法です。私たちの日常生活の中でも、発泡はお風呂やトイレの洗剤、ハンドソープなどお

馴染みの方法です。発泡消毒のメリットは、写真1の通り泡状になった消毒薬を付着させるので、①泡状の消毒薬は対象物に接触する時間が液状の消毒薬より長いこと（写真2のように、30分後でも床面にはしっかり泡が残っています）、②消毒薬を散布した箇所が一目で分かるので消毒薬の散布し残しを防ぐことができること、③使用する水の量が液状で散布する場合に比べて少なくても良い、などがあります。

このメリットを活かして、豚舎の中でも汚染度の高い床面、ビニールやステンレスなどのようにツルツルしていて水滴が付着しにくい素材、コンパネのように細かい凹凸がある素材には特に適しています。

動力噴霧器に取り付ける発泡ノズルは、国内のメーカーから何種類かの製品が販売されています。中でも写真3の発泡ノズルは、重さ280g、全長230cmと軽量化されており、作業性は動力噴霧器とあまり変わりありませんのでお勧めです。

肝心の消毒液ですが、全ての消毒液が発泡できるわけではありません。逆性石鹼やヨード系は成分の中に界面活性剤が入っているので、製品単体で発泡



写真1-1



写真1-2



写真2-1 (散布直後)



写真2-2 (散布30分後)

することができます。しかし、アルデヒド系や塩素系は界面活性剤が入っていないため、発泡補助剤として市販されている界面活性剤を添加する方法もあります。

4. 煙霧消毒

煙霧消毒とは、煙霧機を用いて消毒薬を2～3ミクロンの非常に細かい粒子にして行き渡らせる方法です。煙霧消毒のメリットは、①濡らさずに消毒を行いたいものを消毒できること、②消毒したい場所に煙霧機を設置し、作動させるだけで煙霧機から消毒薬が噴霧されるので手間が省けること、③餌箱の裏、屋根裏、隙間など、人間の手では消毒液を散布できない細かい隙間にも煙霧にした粒子が行き渡り消毒できること、などがあげられます。このメリットを活かし、コンテナ豚舎、農場に出入りする人、農場内に持ち込む資材や機械、豚舎内の落下細菌の消毒に用いられています。特に資材消毒については、PED発生以降、実施される農場が増えているようです。

煙霧消毒に用いる機械は、ガソリンを動力とする大型のもの（写真4）と、コンプレッサーを動力とする小型のもの（写真5）があります。豚舎のように消毒対象範囲が広い場合には大型のものを、また、人や農場内に持ち込む資材や機械など狭い部屋で消毒を行う際は小型のものがお勧めです。



写真3



写真4



写真5 (キリータンク)

一般的に煙霧消毒は、仕上げの消毒として行われることが多いので、消毒薬は殺菌スペクトルの広い消毒薬（グルタルアルデヒド製剤等）が選択されます。一方、生体がいる畜舎などを消毒する際は、畜体噴霧の許可のある逆性石鹼等を用います。

次回は、消毒の実例と検証方法についてご紹介いたします。お楽しみに！

畜産環境整備機構のリースを活用しよう！

～用途に併せた5つのタイプのリース事業を実施～

一般財団法人畜産環境整備機構

畜産環境整備機構では、畜産農家の皆様に施設や機械等のリースを実施しています。また、昭和51年からのリースの実績、とりわけ畜産環境整備への取り組みの経験とノウハウを生かし、畜産農家の皆様をサポートしております。

今年度は、当機構が事業主体として運営する①経営リース、②排水や臭気処理に必要な施設や機械及び衛生管理対策の施設や機械を対象とした環境・衛生リース（新事業）、③中古機械を対象とした調査リースに加えて、国で実施している事業にリース会社として参画する④クラスターリースや⑤酪酪リースの5つのタイプのリース事業を実施しております（表1）。

今回は、養豚経営を行う皆様に①経営リースと②環境・衛生リースをご紹介します

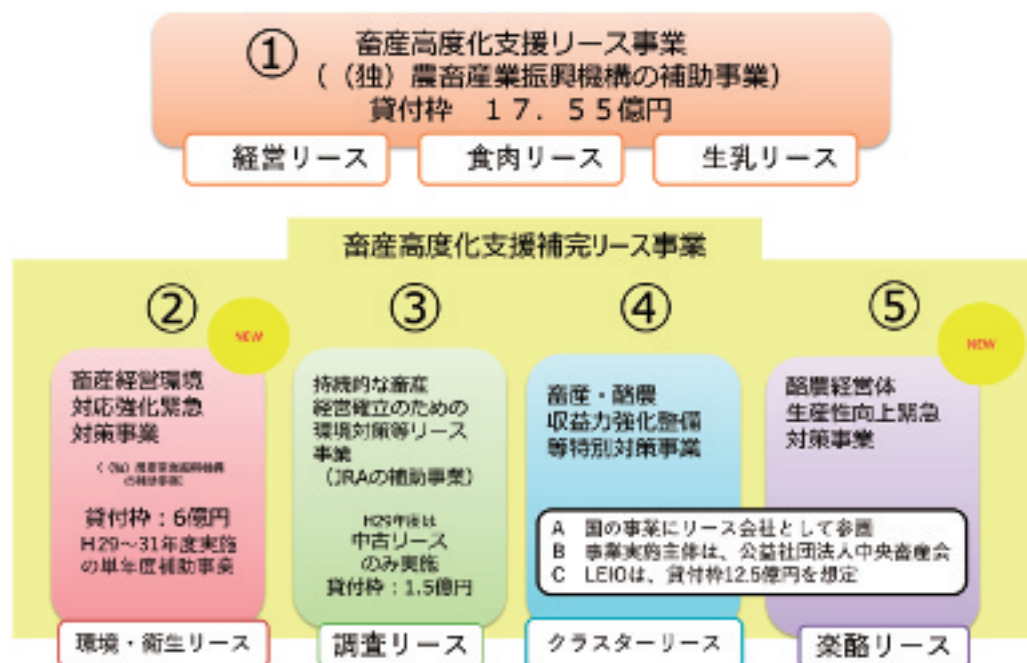
①の経営リースは、家畜ふん尿処理や飼料生産・給与及び家畜飼養管理にかかる多様な施設や機械のリースが可能となっています。なかでも、子豚の病

気の感染を遮断するための離乳保育器や豚の移動に使用する家畜運搬車のリースは、養豚農家の方に人気があります。また、近年、畜舎（基準単価制限有）や六次産業化の機械装置も対応が可能となり、特に六次産業化に必要なミートスライサーやラベラー等の機械も好調です。このリースは、当機構が販売業者や機種を指定することがないため、お客様がご自身の経営規模や機械の使い方、大きさなどを考慮して、好きな機械やメーカーを選択できます。また、法定耐用年数を貸付期間としていますが、当機構の定める範囲内で延長や短縮ができます。また、頭金の準備も不要であり、支払い方法も年1回払と年4回払の選択が可能であるため、効率的に資金計画がたてられるのも、当機構リースのメリットです。

②の環境・衛生リースは、経営リースの対象となる施設を念頭に焦点を絞ったリースです。

その焦点とは、行政サイドからみて早急に畜産農家の方々に対応して頂きたい次の3つです。

表1



まず、(ア)畜産排水に対する硝酸性窒素等の暫定排水基準の順守があります。そのため、貯留槽や浄化槽など畜産排水を浄化処理するための施設をリースします。

次に、(イ)畜産臭気への対応です。近時、地方自治体では物質濃度規制に替えて複合臭等に対応が可能な官能検査による臭気指数規制を導入する傾向がみられます。こうしたことから、換気装置、脱臭装置をはじめ、固液分離機、汚水攪拌機、浄化槽など畜舎等から発生する臭気を脱臭処理するための施設をリースします。

そして最後が、(ウ)家畜の伝染性疾病的発生を予防する飼養衛生管理基準の遵守を徹底するため死亡家畜による病原体伝播防止に必要な死亡家畜保管用冷凍冷蔵庫などの施設や衛生管理区域に立ち入る車両の消毒や衛生管理区域内にある畜舎等の消毒に必要な車両消毒槽や噴霧機、洗浄機などの施設をリースします。

このように緊急性の高い行政目的に沿ったリースですが、基本的なリースの仕組みは①の経営リースと同じです(表2)。したがって、借受者は、経営リースと同様に申請書の準備などが必要で、履行保証

保険に加入して頂くことも同様です。

ただし、経営リースと大きな違いがあります。畜産農家の方が負担する保証保険料については独立行政法人農畜産業振興機構の補助金が交付され、農家の実質的な負担は0(ゼロ)円になります。保証保険料に対する補助金の代理受領を畜産環境整備機構に委任するなどの事務処理が必要となりますが使いやすいリースになっています。

両リースともに、お申し込みについては、日本養豚事業協同組合または当機構にお問い合わせ下さい。

最後に、当機構はリース事業以外にも、福島県西白河郡に畜産環境技術研究所があり、一般の畜産農家向けにも堆肥の分析を実施しております。一般分析や微量分析などの用途に併せた検査が可能となっておりますので、堆肥の利用促進にご活用下さい。

(一財)畜産環境整備機構ホームページ：

<http://www.leio.or.jp>

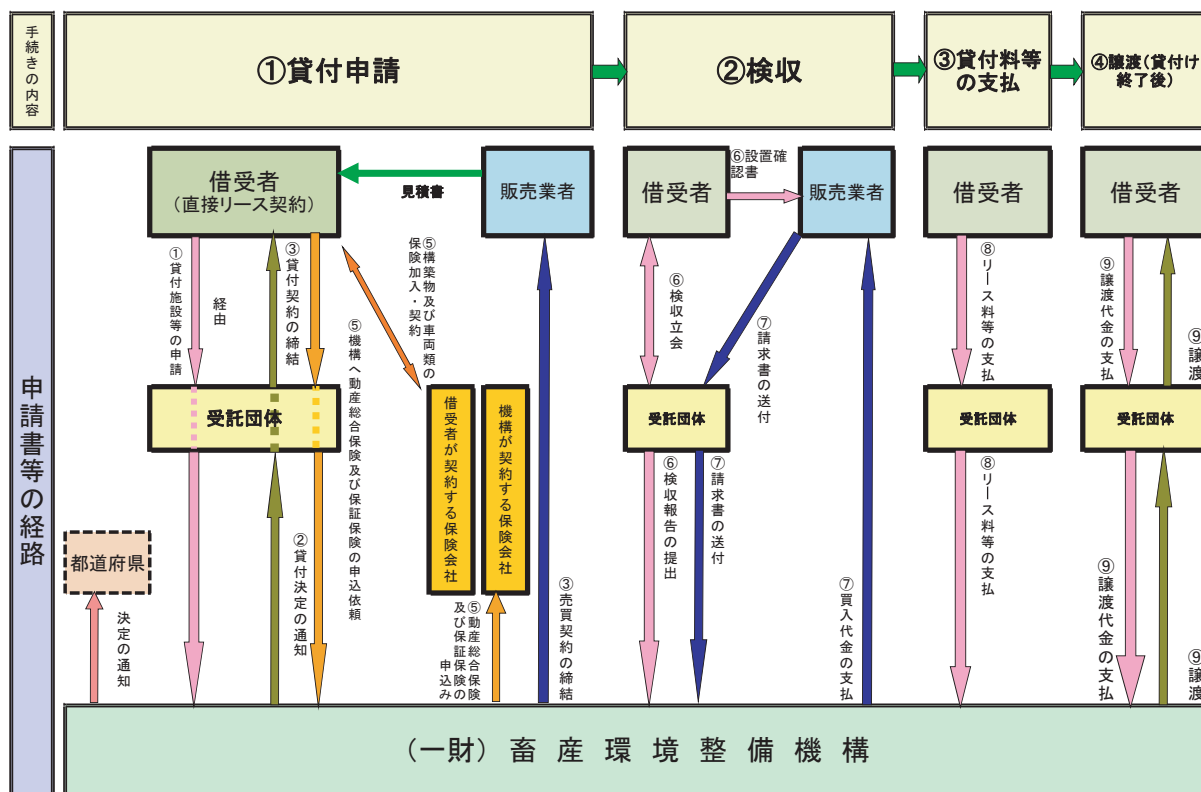
リースの申込・問い合わせ(担当：雨宮)

03-3459-6348

堆肥分析の申込・問い合わせ(研究所)

0248-25-7777

表2 リース事業の仕組み





《イノシシ》

イノシシ（猪）の子供は『瓜ん坊』というのは皆さんご存知ですね。私は北海道育ちなので瓜坊を知りませんでした。

初めて養豚をしたとき、育成豚にイノシシが種付けしていったのを知らず、夜の分娩で生まれてきた“縦縞の子豚”をみて驚きました。ハンプシャーやデュロックにこんな縞模様が出るわけがありませんので、目がおかしくなったか気が違ったのかなと思い、事務所に帰って寝てしまいました。翌朝地元の人たちが出社してきて“猪の子供”だと初めて知りました。

ところで豚は首の力が強いのはよく知られています。ある試験では1.5トンの荷物を簡単にひっくり返したとのことでした。



● ● ● 豚 事 協 の 年 間 行 事 ● ● ●

理 事 会

第 1 回	平成29年 1月21日 (土) (東京)
第 2 回	平成29年 2月24日 (金) (東京)
第 3 回	平成29年 4月14日 (金) (東京)
第 4 回	平成29年 8月21日 (月) (東京)
第 5 回	平成29年10月20日 (金) (東京)

支 部 会

中 部 支 部	平成28年 5月19日 (金) (名古屋)
関 東 支 部	平成28年 6月23日 (金) (東京)
北 海 道 支 部	平成28年 7月 7日 (金) (札幌)
東 北 支 部	平成28年 8月25日 (金) (盛岡)
中 四 国 支 部	平成28年 9月22日 (金) (松山)
九 州 支 部	平成28年10月13日 (金) (熊本)
沖 縄 支 部	平成28年11月17日 (金) (那覇)

女 性 部

第9回女性部セミナー 平成28年 6月 2日 (金) ~ 4日 (日) (北海道)

そ の 他

海外視察研修 平成29年 9月 9日 (土) ~ 17日 (日) オランダ・フランス

※青字は平成29年 9月 1日以降の行事となります。都合によっては変更・中止となる可能性もありますこと、ご了承下さい。

編 集 後 記

前号から新しく「Dr.伊東のランダムシンキング」コーナーを設けました。体調を崩され、予定より早く麻布大学を退職されて治療に専念される予定だった伊東先生に、少々無理を言ってお願いしました。本や雑誌で伊東先生のお名前を目にされたことは多いかと思いますが、本誌のような伊東先生のコラムをご覧になるのは初めてだと思います。

前号の趣味のお話からは今まで他の記事では読み取れなかった伊東先生の真面目で少々頑固な性格が垣間見られ、今回のブタに関する科学的な観点からのお話からは、伊東先生がいかにブタ好きかということが感じられます。

現場担当者にとっては豚肉を生産するうえでの技術的な情報はもちろん大事ですが、養豚に携わる全ての人がこの産業をしっかり理解し、楽しく誇りを持って仕事をするためにも、いろんな方面からブタについての話を聞くことはとても良いことではないかと思っています。日頃そうされていることと願っておりますが、ゆめ通信を皆さんで共有し、ご利用いただければと思います。

伊東先生の記事に関する感想も是非事務局にお寄せください。ファックスでもホームページのお問い合わせページからでも結構です。伊東先生もみなさんの反応を楽しみにされているようですので、よろしく願いいたします!! (東)